

図画工作科学学習指導案

授業者 木幡 志帆

1. 日時・場所 令和4年 12月7日(水) 5校時 図工室
2. 学年・組 第6学年2組 30名
3. 「学習の方向性」から題材へ

造形的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を育む「学習の方向性」

○感じたことや想像したこと、見たこと、伝えたいことから表したいことを見付け、主題を効果的に表す。

○親しみのある作品などのよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を深める。

【A表現(1)イ(2)イ】【B鑑賞(1)ア】〔共通事項〕

子どもたちの姿

7月に実施した図工に関するアンケートの結果、図工を「大好き～どちらかという好き」という児童が88%、「好きでも嫌いでもない～好きではない」という児童が12%であった。多くの児童が図工を「楽しい、好き」と感じており、自分なりの表現を見つけて夢中になって活動している様子が見られる。一方で苦手を感じている児童は、自分のイメージしたことを思ったように表せなかったり、表したものに自信がなかったりしている。本学級の児童は、個性豊かで自由に発言や発想をする児童がいるが、自分が表したいものを思ったように表せなかったり、思いを表現したりすることに苦手を感じている児童もいる。アンケートの結果から、児童が楽しいと感じるのは、造形遊びと鑑賞が一体になった、感じたことをその場で表現し、共有しあう活動だった。表現することの楽しさと、恥ずかしさの間で、揺れている児童の姿が見られる。「音のする絵」では、音を絵で表す活動をしたのだが、目に見えないもの、イメージしたものを絵で表すことに難しさを感じている児童がいた。教師と会話したり、友達の表したのを見たりして、自分なりの表し方にたどり着くことができていた。本学級の児童は、こうした題材に取り組むことを重ねてきたことにより、少しずつイメージを形や色にする力を身に付けてきている。

教師の願い

前年度と比べて、自分の思いを表すことに躊躇する姿が見られるので、自分の感じたことやイメージしたことについて、表すことを楽しみ、自信をもつようになってほしい。様々なことに悩み、葛藤する時期にあるからこそ、自分の内面を絵で表すことに取り組み、表現することの面白さを感じながら、自分の感じたことを大切にしていいたいということに気付かせたい。

美術作品を鑑賞し、その色や形、筆あとなどから感じ取る「作者の思い」を探り、自分なりに考えたことを基にして、自分の心を絵に表す活動に取り組むことで、イメージしたものを形にしていく難しさと面白さの両方を感じてほしい。鑑賞した作品の技法を模倣してみたり、これまでの自分たちが取り組んできた技法を思い出したりして、6年間学んできた図工の技法を総合的に活用できるようにしたい。

「音のする絵」に続いて、目に見えないものを絵で表す活動になる。目に見えないものをどのように表したらよいか悩む児童もいたが、本題材を通して、さらにイメージを具体化し、見る人に効果的に伝えることができる力を身に付けさせたい。

題材名

わたしの心もよう ～形や色に思いを込めて、12歳のわたしをもようで表そう～

題材目標

○美術作品を鑑賞し、色の鮮やかさや筆遣いの特徴を理解し、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて工夫して表すようにする。

○鑑賞した作品の造形的な特徴から、目には見えない「心」についての形や色のイメージを広げ、自分のイメージを基に表したいことを見付け、どのように主題を表すかについて考え、絵に表すことを通して、表現の意図や特徴について感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めるようにする。

○主体的に鑑賞したり、絵に表したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うようにする。

題材について

本題材では、作者の思いが強く表れた我が国や諸外国の親しみのある美術作品を何点か鑑賞し、自分がよいと感じた表現方法を見つけて、それを基に自分なりの表し方で、自分の心を絵に表していく。自分の表し方に自信を持ってない児童に、自分の感じていることを表す楽しさを味わうと共に、様々な感じ方や表し方がある面白さを改めて実感できるように本題材を設定した。6年生になり、心も身体も成長し、これまでよりも素直に自分を表現することが難しくなってくるこの時期に、言葉や文ではなく「絵で表す」ことの可能性を感じてほしい。心を絵に表す活動に取り組みやすくするため、一つに絞らずに「〇〇な気持ち」として、何点も描いてよいことにして、様々な表し方でたくさんの心を表現できるようにしたい。また、鑑賞した作品の技法を真似して描くことを通して、自分の表し方の幅を広げ、新しい表現に挑戦していくきっかけにしたい。

「学習の方向性」を基に育成を目指す資質・能力と本題材との関連

第5学年及び第6学年 絵に表す活動

主に抽象画を鑑賞することを通して、形や色で思いが表現できることを知り、自分も心を絵で表現する活動に入っていく。これまでの技法に加えて鑑賞した作品の模倣をしてみるなど、新しい表し方にも挑戦できるようにしていく。出来上がった作品は、その場で鑑賞できるようにし、同じ気持ちでも人によって表し方が違ったり、自分では思いもよらなかった表し方があることを知ったりすることによって、自分の見方や感じ方を深められるようにする。

4.テーマに迫るために

研究主題	感性豊かに生きる力をはぐくむ図画工作科学習の創造 ～感じる つくる 考える 子どもの姿を求めて～
部会テーマ	効果的に つくることを楽しむ子どもの姿を目指して

○出あいの工夫

「音のする絵」と同じく、目には見えないものを絵に表す活動であることを伝えることで、活動の見通しがもてるようにする。始めに横浜美術館コレクション鑑賞アプリ「みるみるアート きみはだれ？」を使って、ルネ・マグリットの「王様の美術館」を鑑賞し、「心の中」を絵に表すことのイメージを持たせる。筆遣いや形や色に特徴のある作品を鑑賞することによって、美術作品に興味を持つと共に、造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりしたことから、自分で表したい気持ちをより高めていく。

○場の設定の工夫

美術作品の鑑賞には、全員で見るための拡大したものと、個人でみるためのタブレット端末に入れたものの両方を用意しておくことにより、全員で話し合う時と、個人で細かい部分を拡大して見ることができるようにする。また、心もようを絵に表す際には、取り組みやすくするために、グループで互いに見合いながら描けるようにしたり、小さめの画用紙を用意して何枚も描けるようにしたりする。描いた絵は、その場で図工室に掲示できるようにして、いつでも見合うことができるようにする。

○共感的支援の工夫

鑑賞の際、タブレット端末に直接感じたことを書きこめるようにし、自分の感じたことを言語化させて友達と共有しやすくする。また、描いた絵をその場で掲示していくことによって、自然に相互鑑賞ができるようにする。描いた絵は、同じ気持ちを同じ連にして掲示していくなど、掲示の仕方を工夫し、同じ気持ちでも表し方や感じ方が違うことを楽しめるようにする。

○小中一貫の視点

美術作品を鑑賞し、感じ取ったことから発想をして自分の心もようを絵に表す活動は、中学校美術科A表現（1）ア（2）ア（ア）（イ）絵や彫刻などに表現 共通事項（1）アイ」における、感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、豊かに発想し構想を練り、創意工夫して美しく描いたりつくったりすることにながっていく。

5.題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 美術作品を見るときに感覚や行為を通して、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを理解している。 前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術作品の形や色などの造形的な特徴を基に、目には見えない心について自分のイメージをもち、どのように主題を表すかについて考えている。 自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 心の中を絵に表す面白さや喜びを味わい、主体的に表現する学習活動に取り組もうとし、活動を通して、主体的に形や色などに関わり、楽しく豊かな生活を創造しようとしている。

6.指導と評価の計画 5時間（本時4／5）

- ア 心を絵に表す活動をしていくことを知る。（10分）
- イ 複数の美術作品を見て、筆遣いや色や形の特徴で気が付いたことから、どんな感じがするか考える。（30分）
- ウ 鑑賞した作品の表現方法をまねしたり、いいと思ったところを取り入れたりして、これまでの表現方法も合わせて、自分なりの表し方で心の中や気持ちを描く。（135分）
- エ 人型の枠を作り、自分が描いた心の中や気持ちの絵に当てはめて、いいと思ったものを作品として貼り合わせ、友だちと鑑賞しあい、活動の振り返りをする。（45分）

	子どもの学習活動	評価規準 【評価方法】	教師の指導	知・技	思・判・表	主体的
1	<p>ア 形や色に思いを込めて、自分の気持ちを絵で表そう。</p> <p>○「みるみるアート きみはだれ？」のルネ・マグリットの作品を見て、心や気持ちを絵に表す活動をすることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 不思議な感じのする絵 体の中が風景になっている。 		<p>○心や気持ちを絵に表すことがイメージしやすくなるよう、横浜美術館コレクション鑑賞アプリ「みるみるアート きみはだれ？」ルネ・マグリットの「王様の美術館」を見せる。</p>	↓	↓	↓

○人型の枠に当てはめた複数の美術作品を見て、その中から選んだ一つの作品について、どんな気持ちなのか題名を考え、どうしてそう感じたのか、理由をタブレット端末に書き込み、全体で話し合い共有する。

・激しい感じがする。塗りがたくったタッチからそう感じた。

・明るい気持ちになる。色がたくさん使われているから。

○作品から感じ取ったことと、作品の題名、作者名、作品の背景などを合わせて、表したかった思いについて考える。

・伝えたかったのは○○な気持ちなのかな。

・あの模様の作品の題名が、○○だとは思わなかった。

知・技

美術作品を見ることを通して、動き、バランス、色の鮮やかさなどを理解しようとしている。

【活動の様子】

【タブレット端末】

思・判・表

複数の作品を見比べる中で、表現の違いや意図を感じ取っている。

【活動の様子】

【タブレット端末】

○拡大した作品を黒板やテレビに映し、全体で鑑賞できるようにする。

○3つの作品の中で一つを選ぶこと、なぜその作品を選んだのという理由の中に、自分の鑑賞の視点があることに気付かせる。

○児童の発言から出た言葉を基に、鑑賞の視点を示す。(形・色・質感・筆遣い)

○各自のタブレット端末でも美術作品の写真が見られるようにしておく。

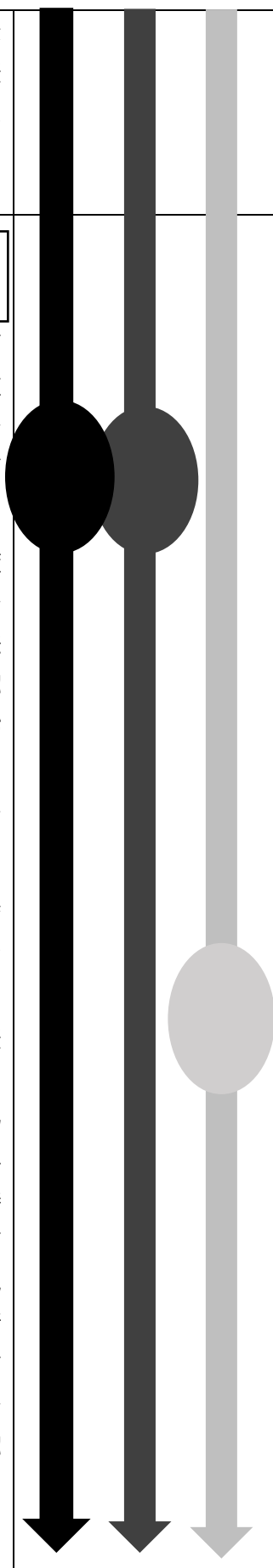
○作品に感じたことなどを書き込めるようにする。

○個人→グループ→全体の順に意見を出せるようにする。

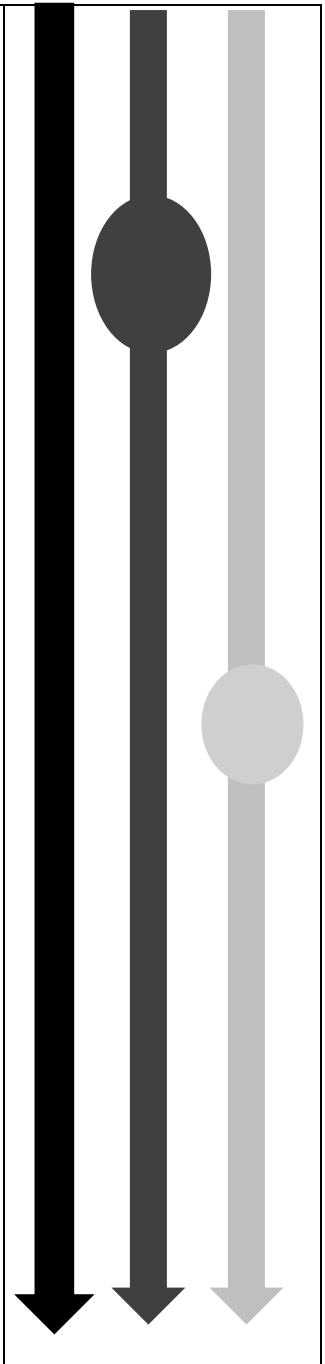
○隠しておいた作品名と作者の顔パネルを見せる。

○見る人が感じたことと、作者が伝えたことが違うことがあっていいことを伝える。

	<p>○ワークシートに、自分が表したい気持ちについて書く。表したい気持ちに合う色や形、技法をメモしておく。</p>		<p>○気持ちは一つでなくてよいことや、表しながら変わってよいことを伝える。</p>	
3	<p>ウ 表したい気持ちや心に合わせた技法を使って、12歳の今の自分の気持ちや心を、もようで表そう。</p>			
4	<p>○どんな気持ちや心を表すのかを考えながら試す。</p> <p>○鑑賞していいと感じた表現方法を試したり、これまで学んだ技法を組み合わせたりして、自分なりの表し方で「心」や「気持ち」を描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強い気持ちは何色で表そうか。 ・水を少なめにしてみたらいい感じになった。 ・スパッタリングでふんわりさせたい。 <p>○出来上がったものを人型の紙に当てはめてみて、どんな感じになっているか試しながらつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここの部分が体の真ん中にくるといい感じになる。 	<p>知・技</p> <p>美術作品を見て感じたことや、これまで使ってきた技法や材料などを総合的に生かし、表したいことに合わせて、効果的に表そうとしている。</p> <p>思・判・表</p> <p>美術作品の形や色などの造形的な特徴を基に、目には見えない心について自分のイメージをもち、どのように主題を表すかについて考えている。</p> <p>【活動の様子】</p> <p>主体的</p> <p>心の中を絵に表す面白さや喜びを味わい、主体的に表現する学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>【活動の様子】</p>	<p>○様々な大きさの画用紙を用意し、何枚描いてもよいことを伝え、取り組みやすくする。</p> <p>○図工室に前時で鑑賞した作品の拡大を掲示しておき、技法などをいつでも確認できるようにしておく。</p> <p>○これまで経験してきた技法の掲示や、必要な材料や道具を、すぐに使えるように準備しておく。</p> <p>○何をどのように表せばよいか迷っている児童には、①どんな気持ちを表してみたいか。②その気持ちを表す色や形は何なのか。を考えられるように個別に対話をして支援する。前時に鑑賞した作品をもう一度見せて確認してもよい。</p>	
5				



<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>エ 型紙をつくって、気持ちに当てはめてみよう。</p> </div>		
<p>○人型に切り抜いた形をつくる。</p> <p>○気持ちの絵に型紙を当てはめて、自分の表したい気持ちに合う表現を選んで、貼り合わせる。</p> <p>○出来上がった作品を鑑賞し、感じたことや考えたことを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全然違う表し方なのに、同じ気持ちの作品があって、おもしろいと思った。 ・気持ちを絵で表すのは難しいと思ったけど、みんなの気持ちが絵で伝わってきた。 	<p>思・判・表</p> <p>自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。</p> <p>【活動の様子】</p> <p>【振り返りカード】</p> <p>主体的</p> <p>活動全体を通して、主体的に形や色と関わり、楽しく豊かな生活を創造しようとしている。</p> <p>【発言】</p> <p>【振り返りカード】</p>	<p>○出来た作品には「○○な心」「○○な気持ち」という題名を裏に書いてからクリップで止めて吊るすようにする。</p> <p>○同じ気持ちがあったら、その連に吊るしていくように伝える。</p>



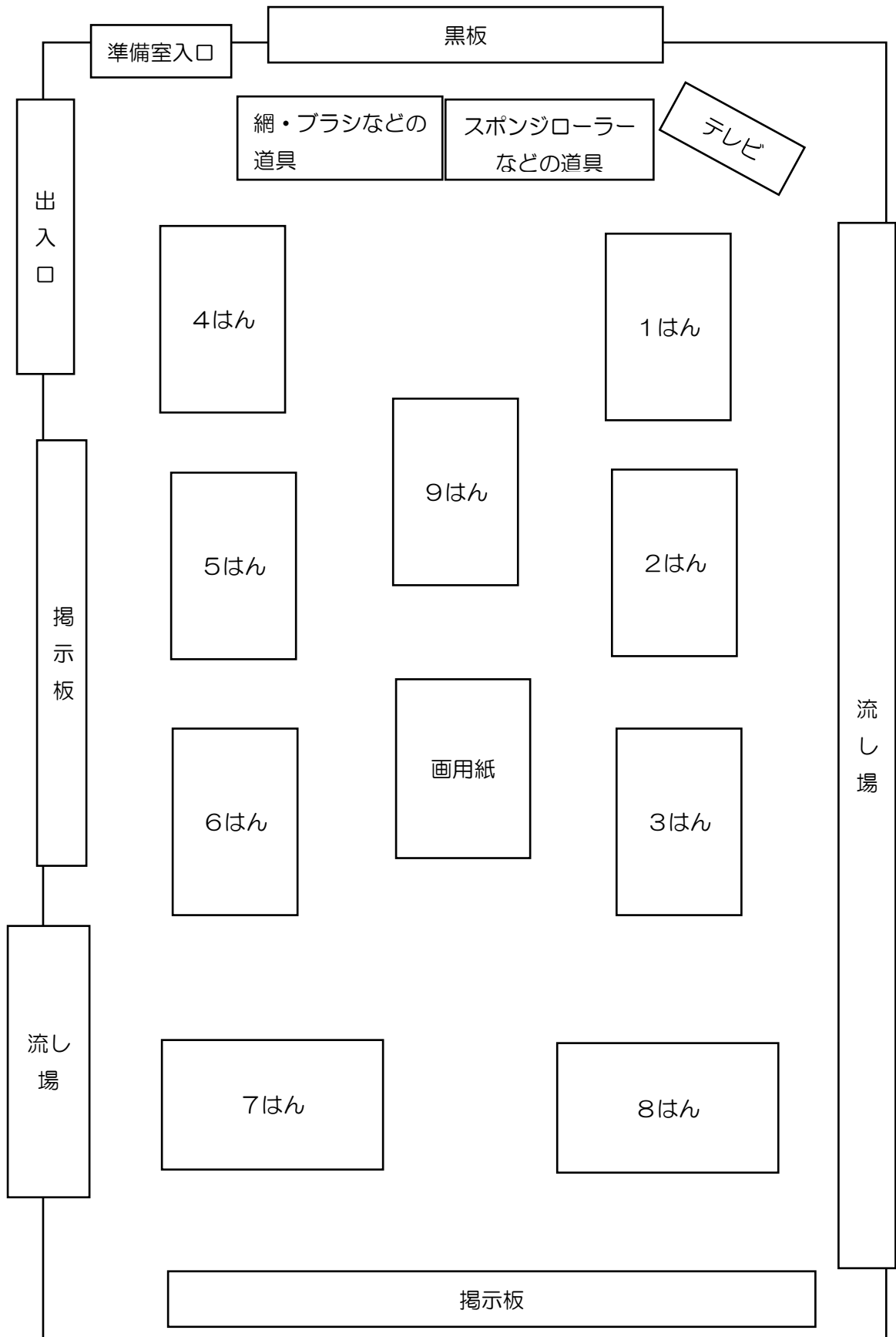
7.準備

児童：筆記用具、水彩絵の具、タブレット端末、はさみ、のり

教師：掲示用の美術作品、タブレット端末、ポストカード・八つ切りサイズの画用紙、コンテ・パステル、クレヨン、網、ブラシ、ビー玉、プラスチック容器、スポンジ、刷毛、型紙用の画用紙

8.場の設定

図工室



9.本時の計画（4／5時）

本時目標

鑑賞した作品の造形的な特徴から、目には見えない「心」や「気持ち」について形や色のイメージを広げ、自分が表したい心や気持ちのイメージに合わせて、これまでの表現方法も活用し、表したいことを効果的に絵で表す。

本時展開

子どもの学習活動	具体の評価規準と評価方法	教師の指導
<p>表したい気持ちや心に合わせた技法を使って、12歳の今の自分の気持ちや心を、もようで表そう。</p>		
<p>○表したい気持ちに合わせた表現方法を試したり、鑑賞した作品の中で気に入った技法を試したりして、自分の気持ちを表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生として、成長した誇らしい気持ちを明るい色で表そう。 <p>○試して描いた模様を見て、自分の中のどんな気持ちが当てはまるか考えて、さらに技法を重ねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぐねぐねした線が、悩んでいる感じに見える。色を変えてみたらどうなるかな。 <p>○描いたものに人型の型紙を当てはめて、どんな感じになるか確かめて、さらに工夫できるところはないか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・型紙に当てはめると、気持ちがあっさりする。 <p>○出来上がった作品の裏に作品名と名前を書いて、乾燥と鑑賞のために吊るす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表し方が全然違うのに、同じ気持ちだった。 	<p>知・技</p> <p>美術作品を見て感じたことや、これまで使ってきた技法や材料などを総合的に生かし、表したいことに合わせて、効果的に表そうとしている。</p> <p>【活動の様子】</p> <p>思・判・表</p> <p>美術作品の形や色などの造形的な特徴や、これまでの技法と使って表したものを基に、目には見えない心について自分のイメージをもち、どのように主題を表すかについて考えている。</p> <p>【活動の様子】</p> <p>主体的</p> <p>心の中を絵に表す面白さや喜びを味わい、主体的に表現する学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>【活動の様子】</p>	<p>○美術作品の拡大を掲示して、いつでも全体で見ることができるようにする。</p> <p>○気持ちが先でも、表しながら気持ちを見付けても、どちらでもよいことを伝える。</p> <p>○対話を通して、感じたり考えたりしたことを、明確にしていく。</p> <p>○表すことに悩んでいる児童には、まずは気に入った技法を好きな色で試してみるように声掛けをする。</p> <p>○すらすら描いている児童には、表した意図が明確になるように、「この形は何を表しているの？」などと質問する。</p> <p>○人型の紙は教師が用意し、描いて当てはめて確認できるようにする。</p> <p>○作品を吊るしている児童に「同じ気持ちを表している人はいた？」などと声掛けをする。</p>

12月7日	第6学年	
【授業者】	戸塚区 鳥が丘小学校 木幡 志帆 先生	
【題材名】	わたしの心もよう	

【自評】

6年生の子どもたちはとても真面目、子どもらしい。自分の表していることに自信がもてない子が多い。今年度の実践提案の「みるみるアート」を参考に、マグリットの作品を取り入れてみようと考えた。子どもたちの実態から表現に絞って授業を組み立てた。心を絵に表すことは難しいのではないかと考えていたが、「音のする絵」を実践した際に、目に見えない音を表現する活動をととても楽しんでた。

4年生で技法を楽しむ題材があるが、6年生でも最初は技法を楽しむことから入るといいのではと思いい他のクラスでやってみたら、活動が深まらなかった。そこでワークシートを用意した。表したいことを言語化することで、支援しやすかった。表すことを楽しんでほしかったので、ワークシートに書いていなくてもやりながら見つけていってもいいと伝えた。子どもたちはいつもの様子と違って緊張していたが、黙々と活動を進めていた。

○ワークシートはあったほうがよかったのか。

○題材をよりよくするには。

【研究協議】

- どの子も自分の思いをもって取り組んでいるのがわかった。どのように主題を表すかをもてていた。自分の作品を大事にしていた。評価について、何がBでAか。主体的 教科担任制の場合、たくさんの子もたちをみていると評価が大変なのは。
- 教師と話しながらタブレットで写真で記録。教師の声かけでさらにのびたらA、自分の表したいことに合わせて材料や用具を求めてくる子などAにしている。
- ワークシート使う、使わないを子どもに選ばせてよかった。枠も自分で作っておくと、自分の心を表すひとつになる。振り返りより片付けに時間かかる子、どうしているか。独自の技法を生み出している子のフォローどうしたらいいか。
- カードの大きさの意図は→基本は八つ切り。縦半分、横半分、さらにその半分、組み合わせると八つ切りの大きさになる。
- 6年生の子たちがのびのびと活動していた。ワークシートがあったことで、思いがわかるのでこの題材では有効だった。一つの表現だけで表すと、4年生と変わらないので、組み合わせる方が効果的に表せるのではないか。12歳の私ということであれば、自分のシルエットにするのがいいのでは。作品が全部できてスライドショーするなどのアイディアも広がる。
- 掲示物の一つ一つが子どもたちの活動の手立てになっていた。苦手な子も取り組める。一人一人が意欲的で、ゴールのイメージをもてていた。人型があることで最後のイメージもてる。男女関係なく作品について話していて、みている人も嬉しい気持ち。ワークシート、エピソードも書いてあることで支援しやすい。
- 図工の嫌いな子はいないがうまくできなくて苦手という子が多い。手立てが多くそういう子が取り組

みやすい。思いをもっていてもゆっくり活動する子、専科の先生が支援するのは難しい。どのようにされているか。ワークシートに縛られることなく活動できた。目に見えないことを表す場合、具体物を入れていても表したいことに合っていれば良いのでは。

- 4年生の時にやったからと言って6年生で思い出してやろうと言ってもなかなか難しい。繰り返し意識的に取り入れていかないとこのようにはできない。卒業前にやってみたい。言葉で伝わらないことが絵で表せるのは図工のよさ。ワークシートを吊るしておくのはとても良い。
- 子どもたちが黙々と取り組んでいた。色々な手立てが素晴らしい。振り返りも充実していた。ワークシート・・・文字に表すと支援がしやすい。技法をワークシートに入れて○をつけるだけでも。みるみるアート・・・鑑賞を入れることで色々な表現に触れることができ、自分の表現に活かせる。評価・・・今回の場合、Aがつく子はどのライン。効果的に表すとはどういうことか。
- 授業後に楽しかった！と言っていた子がたくさんいた。わからなかったという子がいなかったからではないか。

【指導講評】

ONITS教職員支援機構の動画を見ると、図工の評価などとてもわかりやすいので参考に。努力を要する子をまずは支援。CをBにする手立てを。指導要領に書かれている姿が見られたらB。質的に高まっている、深まっていると思ったらA。Aになる根拠をメモしておく。授業の中でやっておくことはCをBに引きあげる。質的な高まりがある子のメモや写真を撮っておく。後からの評価ではなく、その都度。自分で題材にしていくには、指導要領に書かれていることが達成できるかどうか。研究主題は横浜市ですと大切にしていること。低学年、中学年の積み重ねが高学年の「効果的に表す」につながる。中学校になったら生徒自らが表したいことを心に思い描く＝主題が大切にされるので高学年の授業が大事。各校の子どもたちにあった図工の授業を。

○わくわく感があふれる教室だった。指導案検討から、木幡先生の熱い思いや目の前の子どもたちに合わせて柔軟に変えていこうとする姿勢が素晴らしい。

授業の中で全体に話していたこと、「ワークシートに書いていることと変えていってもいいからね。」→つくりつくりかえつくり続ける子どもの大枠を捉えている。

手で水分量を調整している子・・・知技：総合的に活かし、効果的に表そうとしているA

グラデーションの上に描いている子・・・思判主：卒業に向けてのわくわくドキドキの気持ちを水分量に気をつけながら取り組んでいたA

こういった評価を積み重ねていく。Cの支援をしながらAを見抜くか。担任の先生方にも協力してもらい画像などを撮ってもらう。

○描きたいものがはっきりしている子がたくさんいた。出あいの工夫、場の設定の工夫、共感的支援の工夫などが素晴らしいから。評価は作品でするのではない。活動の中での支援、評価が大事。働き方と充実した授業バランスをとりながら。小学校でやってきたものを中学校でどれだけ伸ばせるか。小中のつながりを意識できるように、小中ブロックでカリキュラムを持ち寄って、どこがどこにつながるか話せると良い。